

2022年度 学校経営計画及び学校評価【ヴェリタス城星学園中学校・高等学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念に加え、フランシスコ・サレジオや教皇フランシスコの教説についての学びを深め、その成果をカリキュラムの中で具体化する。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”（「何も恐れることはない」）を実感できるような教育環境を創造する。
外部の資源を可能な限り活用しながらきめ細やかな生徒対応を行い、生徒の自己肯定感・自尊感情を向上させる。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
教職員の研修や自己研鑽を積極的に支援するとともに、教職員間の研究会・親睦会の機会を増やす。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
サステナビリティについての意識を高め、学園が持つ資源の効率的配分・利用を教職員全体で検討する。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
「城星ファミリー」との関係性を深め、教育活動面での具体的な協働の可能性を模索する。一方で、本校がリカレント教育の場としての役割を果たすことをめざす。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった10項目></p> <ul style="list-style-type: none">○緊急時の適切な情報伝達○施設設備の行き届いた清掃○施設設備の行き届いた安全管理○全体的な本校への満足○保護者の相談への適切な対応○教職員の気持ち良い挨拶○個人情報への適切な取扱い○基本的な生活習慣・礼儀・マナー指導○教育理念の分かりやすい説明○建学の精神・教育理念への共感 <p>(満足度87%以上)</p>	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2022年度学校評価に関する検討は2023年3月9日(木)に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <p>○校内で教員に会った際、みな笑顔で挨拶され、とても気持ち良い対応をしてもらえると感じる。そのような教員の姿を見ているからか、生徒も多くが笑顔で大きな声で挨拶を返してくれる。思春期で難しい年頃かと拝察するが、本校の教育の賜物であることを実感している。</p> <p>○文化祭として位置づけられる行事がないため、城星フェスタにもっと中高生が主体的・積極的に関わるように教員の協力と指導を期待したい。</p>

ア. 自己評価アンケート結果と分析(続き)	イ. 学校関係者評価委員会からの意見(続き)
<p><評価が相対的に低かった5項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめ防止の取組 ○教育活動におけるICT活用 ○クラブ活動と学業他とのバランス ○地域との連携 ○家庭学習の十分さ <p style="text-align: right;">(満足度50~70%)</p>	<p>○本学園の強みのひとつは、様々な校種・年代の子どもたちが同じ学び舎で過ごしていることである。校種を横断して交流できる行事がもっと増えると良いのではないか。</p> <p>○女子校全般が厳しい状況だと思うが、限られた経営資源の中で、上手く運営できていると思う。</p> <p>○ミマモルメによる連絡はとてもわかりやすく、アンケートでの高評価には納得できる。</p>
<p><アンケート総括>施設管理や緊急時連絡に関する評価が高い点は例年同様の特徴となっている。逆に、本年度新設の教育活動におけるICT活用については、特に高校での満足度がやや低く、今後を見据えた取組の重点化を急ぐ必要がある。</p>	<p>○校風に対する高評価は生徒が素朴であるふうに見えていることが影響しているのではないか。これは良い事であるが、生徒本人が学校に対して魅力を感じにくくなっているかもしれないため、この学校が楽しそうだと思う何かがあればいいのではないか。</p> <p>○少人数制で、教員の目が行き届いている。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

※ 満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

※ 「年度評価」の記載内容は学校評価アンケートの結果を分析したうえで、当該目標にかかる活動全般を評価したものである。満足度80%以上で○、同60%以上で△、それ未満で×の表記としている。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
<p>1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。</p>	<p>ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念に加え、フランシスコ・サレジオや教皇フランシスコの教説についての学びを深め、その成果をカリキュラムの中で具体化する。</p>	<p>(1)校訓唱和の時間を作り、カトリック女子校としての心の深化を図り、人としての自律と、柔和と慈愛に満ちた信頼関係を作る。</p>	<p>いじめのない学園作り</p>	<p>学校は、いじめ防止について十分に取り組んでいる。(満足度69.8%)</p>	<p>(△)新たな校訓を唱和することで、生徒の心のよりどころとなりつつある。</p>
		<p>(2)「ファッチョ・イオ」の積極的な精神を發揮する勇気をもてるよう、カトリック団体と連携したボランティア活動やHR活動を活発化する。</p>	<p>いきいきとした生徒の心身の育ち</p>	<p>学校は、教育目標(アシステンツァ・ファッチョイオ)に沿った教育を行っている。(満足度75.0%)</p>	<p>(△)コロナ禍で中止されていた体育大会やフェスタなど協働すべき機会が復活し、生徒の積極性が見られたものの、さらなる自主性の伸長を図る必要がある。</p>
		<p>(3)教皇フランシスコのメッセージを理解し、現代における「良心的な人間、よき社会人」のあり方についての学びを深める。</p>	<p>現代における「良心的な人間、よき社会人」の育成</p>		<p>(△)教職員は研修を通じて教皇様のメッセージの理解を深めることができたが、今後これを実践につなげることが課題である。</p>

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	外部の資源を可能な限り活用しながらきめ細やかな生徒対応を行い、生徒の自己肯定感・自尊感情を向上させる。	(1)ミマモルメを一層、有効活用し、よりの確な情報を発信していく。	ミマモルメの有効利用	学校は、保護者に対して緊急時(地震・台風等)ミマモルメなどを通して情報を適切に伝えている。 (満足度97.8%)	(○)ミマモルメやGoogleクラスの有効利用により、日常の教育活動で生徒・保護者と学校との連絡が一層スムーズになった。
		(2)行事企画やルール作りへの生徒の関与をより高め、生徒が「ヴェリタス城星学園中高」の創造に関わっているという意識を持てるように導く。	生徒の自己肯定感・自尊意識の向上	学校は、建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている。 (満足度80.2%)	(○)TikTokの立ち上げや制服協議委員会の発足を通し、生徒たちが自主的に取り組みを始めている。
		(3)過去の教育相談事例などの記録を匿名データとして整理し、学園教職員間でアシステンツァの意識を高め、その情報を共有する。	アシステンツァのためにsiemsの活用	学校は、子どもの心身の健康に関するカウンセリングの体制を整備している。 (満足度75.3%)	(△)siemsへのデータ整理が滞った。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	教職員の研修や自己研鑽を積極的に支援するとともに、教職員間の研究会・親睦会の機会を増やす。	(1)「学びの森」を軸に、教職員が探究と創造の姿勢を高めることで、多様で柔軟なプログラムの作成を進め、学ぶ楽しさのあふれる環境を作る。	あふれるような学ぶ楽しさの実現	保護者として、「学びの森」の取り組みを評価できる。 (満足度72.8%)	(△)充実した「学びの森」が個々の生徒の積極的な学習意欲に結びついているが、保護者から十分な評価を受けるには至っていない。
		(2)「教職員文庫」や「教職員の学びのデータライブラリ」を設ける。また、教職員の芸術鑑賞会を開催する。	教職員の学び	教職員は、社会人としての良識ある言動を実践している。 (満足度85.4%)	(○)教職員の学びのための時間確保が難しい中ではあるが、経験を分かち合い、生徒の日々の心のケアや指導に反映されている。
		(3)教職員のICTリテラシーをさらに高め、打ち合わせや会議、報告・連絡・相談をより緊密に行う。	教職員の連携の向上	教員間での連携が図られている。 (満足度77.2%)	(△)ICTへの関心を高める研修を行い、実践に生かそうとしている途上である。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	サステナビリティについての意識を高め、学園が持つ資源の効率的配分・利用を教職員全体で検討する。	(1)幼・小・(中)高それぞれの学びの感動を豊かにし、次の校種に導いていく素晴らしさを教職員が共有するため、全体研修会や交流会をもつ。	はぐくみの園としての意識の向上	学校は、子どもにとって将来につながる総合的な学習を行っている。 (満足度80.0%)	(○) 充分ではないが、小中高合同の70周年記念行事を通し、ひとつの学園としての空気を分かち合うことができた。
		(2)弁論大会等を企画し、現代の社会や国際情勢、地球環境について、未来を担う若者の思いをぶつける機会を作る。	小中高生の協働意識向上		(△) 校種を超えた協働意識の向上のため、中高からの積極的な場作りと提案をしていかなければならない。
		(3)「学びの森」の新しい教育の展開が、中高にとどまらず、校種を超えた交流を生み出し、城星学園全体の教育活動の成長に繋げる。	校種を超えた教育活動の実践		(○) 体育、音楽など中高から他の校種に派遣し、協力することができた。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	「城星ファミリー」との関係を深め、教育活動面での具体的な協働の可能性を模索する。一方で、本校がリカレント教育の場としての役割を果たすことをめざす。	(1)70周年記念の各種イベント等を通じて「城星ファミリー」の親密性を高める。	城星ファミリーの活性化	学校の行事(内容・頻度)は適正である。 (満足度78.1%)	(△) フェスタや70周年記念行事を通し、城星ファミリーの活性化を図ることができたが、行事以外の場面での親密度を高める必要がある。
		(2)保護者会や面談の機会以外に、保護者の交流の場を作り、保護者に寄り添う「大人の学びの時間」を作る。	保護者へのアシステンツァ	学校は、保護者に対して建学の精神および教育理念の説明をわかりやすく行っている。 (満足度87.5%)	(○) 保護者から高い評価をいただいている。今後に向けては保護者参加の「大人の学びの時間」を作りたい。
		(3)姉妹校・教会関係の人びととの情報交換を活発に行い、未来志向の積極的意見交換の場を作る。	未来志向の意見交換	-	(△) カトリック校の未来のために積極的に意見交換していかなければならないが、不十分であった。